

先進地紹介

「門前都市 ながの」をめざして

～長野県長野市～

桜川市建設部都市整備課 グループ長 蟹 雅一
主事 山 川 さつき

平成28年10月13日、14日の二日間、茨城県都市計画協会主催の先進地視察に参加し、長野県の先進地2自治体のまちづくりを学ぶ事が出来ました。

ここでは1日目に視察した長野市の長野駅と善光寺を結ぶ善光寺表参道地区エリアの関連整備事業について紹介します。

■長野市の概要

人口数381,957人 世帯数159,503世帯 面積834km²
国内で最も標高の高い位置に県庁舎がある長野市は、長野県北部の中心都市で、善光寺の門前町として有名です。

■善光寺周辺地区街なみ環境整備事業

街なみ環境整備方針で定められた区域を事業対象として、善光寺を核とした門前町の周辺を、景観上の特性により分類し①院坊界限地域②参道界限地域③旧店界限地域の三地域に分けて、それぞれの地域における整備課題を検討し事業を実施しています。



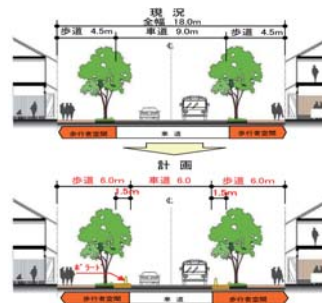
電線類地中化，道路美装化等の状況

主な特徴としては、景観を守り育てることを重視し、住民の皆さんと街づくり協定を締結した地区を対象とする住民主導型事業であり、住民は協定に基づく建物の修理・修景を行い、行政は街なみ整備事業として道路の美装化や電線類地中化などを行うこととして事業を実施しています。

平成13年度に整備方針，平成14年度に整備計画を策定しこれに基づき，修理・修景助成を44件，道路美装化整備を約650m，電線類地中化整備を771m，その他に灯籠型照明や防火水槽を設置し，平成32年度の事業完了を目指し整備事業を展開しています。

■中央通り歩行者優先道路化事業

中央通りは、長野駅から善光寺に至る中心市街地の主軸となる通りで、かつてのにぎわいを再生するための事業です。中央通り歩行者優先道路化を主要施策とした「長野市中心市街地活性化基本計画」を平成11年度に策定し、地元商店主有志による「中央通り活用検討勉強会」や「歩行者優先道路化の社会実験」を踏まえて、平成22年度に整備計画を策定し、平成27年度までに第一期計画区間の約700mが完了しました。



<デザインコンセプト>

石畳を一本の時間帯として 長野駅から善光寺へ現代から古の仏都へ誘われる。(参道の象徴である石畳による連続性のあるまちづくり，道づくり)



広くなった歩道には、ゆっくりまち歩きを楽しめるように多くのベンチを設置。大型の規制看板や案内看板も撤去。植栽管理は沿道の商店会が中心となり実施。

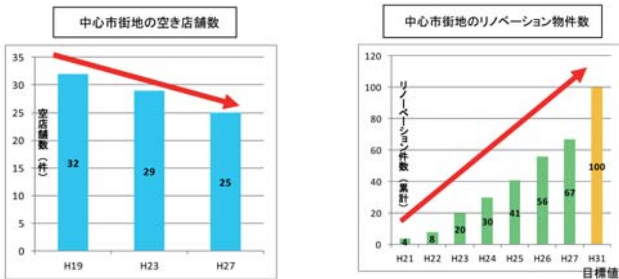
■善光寺表参道地区都市再生整備計画事業（第3期）

～『門前都市「ながの」』心潤う歴史と文化が賑わうまち～を目標に、中心市街地の拠点をつなぐ歩行空間の整備などによって、まちの回遊性を高めることで「線」から「面」へとまちを育むとともに、計画区域内での居住促進、中心市街地の活性化、持続可能な都市の構築を目指しています。



現在は第3期として平成27年度から平成31年度までの計画を実施中ですが、先に示した「善光寺周辺地区街なみ環境整備事業」・「中央通り歩行者優先道路化事業」と併せ平成17年度から実施しております。空き店舗数が減少するなど、徐々に成果が出始めており、リノベーション物件の増加につながっています。

○中心市街地の空き店舗数の減少や、リノベーション物件の増加につながっています○



<ぼていお大門>

使用されていなかった蔵を再整備し、店舗として利用している。

■長野駅善光寺口駅前広場整備事業

平成27年春の北陸新幹線長野金沢間の延伸開業に合わせ、平成20年度から再整備計画検討を始め、県都の玄関口にふさわしい「長野の顔づくり」、交通結節点としての

機能充実、にぎわいを創出する拠点整備を目標に据え、歴史・伝統と自然を活かした長野らしい「おもてなしの心」を表現し、全国にアピールするデザインコンセプトを目指しました。

当整備事業では、善光寺を想わせるデザインの「大庇（おおひさし）」と「12本の列柱（れっちゅう）」の巨大さに目を奪われ、新駅ビル内東西自由通路等に大庇と類似したデザインで施すなど、この事業に使用した木製部材は、長野市内の間伐杉材を使用するなど、県都の顔としての想いを感じさせる仕掛けとなっていました。

また、この事業では、「誰にも優しい歩行者空間の整備」として、広場内の石畳歩道、広場と地下道や自由通路を連絡するためのエレベータ、エスカレーターの整備を実施していました。



善光寺



駅ビル前面の「大庇・列柱」
(善光寺をイメージ)



善光寺口駅前広場



■おわりに

善光寺表参道地区約200haのエリアでは、中心市街地活性化基本計画に基づき様々な事業が実施され、門前町の魅力を高め、賑わいを創り出すためのハード面は整いつつあり、全体のバランスが良くまとまった事業となつていと感じました。

今回の視察は平日の木曜で訪れておりますが、週末と比べ比較的人の少ない状況で、ユッタリと街並みを視察できたことから、仁王門から新田町交差点の区間で、善光寺表参道地区エリア内での分岐点に感じられ、このことから、先に提示した空き家店舗の減少やリノベーション物件の増加などの個別成果に終始せず、計画エリア全体のリノベーションに目を向けないといけない時に入っているように思われ、長野市の今後の施策に期待しております。